

令和 3 年 5 月 29 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03190

研究課題名(和文) 16、17世紀における王権・政治社会関係の西仏比較

研究課題名(英文) A comparative study of Spain and France in the sixteenth- and seventeenth centuries concerning the relations between the Crown and political societies

研究代表者

内村 俊太 (UCHIMURA, SHUNTA)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：90710848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、多様な地域を緩やかに統合したヨーロッパ近世国家のあり方を論じた J・H・エリオットの複合君主政論を理論的な基盤とし、フランス王国との比較を念頭に置きながら、スペイン近世国家の実態解明を前進させた。カタルーニャ、アラゴン、ポルトガルなどの特権身分層と王権の関係についての実証研究を進める一方で、宮廷・副王制・国家理性概念などの近世国家の統合を担う制度や概念についての研究を深化させた。

その成果は立石博高編『スペイン帝国と複合君主政』(昭和堂、2018年)として広く発信され、ヨーロッパ近世国家の分析のための基盤を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が対象としたのは、フランス王国との比較を念頭に、16、17世紀を中心とするスペイン近世国家における、政治的な主体である王権と各地域の特権身分層との関係であった。その近世固有の実態を解明することは、近代(modern)以降の主権国家・国民国家とは異なる、身分制構造と社团的編成にもとづく近世(early modern)国家の複合的構造を実証的に明らかにし、歴史的な国家研究における具体的な考察材料を提示することができた。

また、専門書・論文だけでなく、一般的な書籍の記述としても研究成果を社会に還元することができた。

研究成果の概要(英文)： This research elucidated various aspects of the Spanish Monarchy in the early modern age, especially the 16th and 17th centuries. In order to analyse its conglomerate structure, we used the concept of "Composite Monarchy" proposed by J. H. Elliott as a starting point and principle reference for the research. Accordingly, we drew parallels with the Kingdom of France to seize the historical characteristics of the Spanish Monarchy.

In one aspect, we advanced individual studies that focused on the relations between the Crown and each provincial elite in Catalonia, Aragon, Portugal, etc. We also explored the elements that contributed to the integration of the multiple kingdoms of the early modern monarchy (including the Court, the vicerealty system, Reason of State, etc.). As an outcome of our work, we published a book of essays (titled The Spanish Empire as a Composite Monarchy), to offer novel materials for the further analysis of the State structures of early modern Europe.

研究分野：スペイン近世史、国制史

キーワード：複合君主政 政治社会 特権身分層 近世国家

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、内外の学界におけるヨーロッパ近世国家についての研究進展を背景として、J・H・エリオットの「複合君主政 ( composite monarchy )」論において典型とされているスペイン近世国家の複合的国制を解明することを申請時の目標としていた。

近年、H・G・ケーニヒスパーガ、エリオット、H・グスタフソン、J・モリルらのヨーロッパ近世史研究に触発され、近世国家をその内部に多様な地域政体を抱えた複合国家・複合君主政として捉え、各地域固有の政体を背景とする特権身分層と王権の関係が近世国家の基盤になっていたことが認識されている。

本研究では、各地域の政体や特権身分層を固定的なものとしては捉えず、「政治社会 ( political society )」論もふまえて、各地域において特権身分層が織りなす権力関係の場を「政治社会」と位置づけ、その政治社会がそれぞれの地域固有の事情に応じて、複合国家全体を統治する王権とどのような関係を結び、変化させていくかを動的に考察することを目標とした。狭義の制度史にとどまらずに、近世国家を構成し、変化させ、場合によっては破綻させる可能性のあるものとして王権・政治社会関係を位置づけ、その観点から近世国家のダイナミズムを解明することが本研究の初発時の関心であった。

## 2. 研究の目的

上記のように近世国家のダイナミズムを解明するため、本研究の具体的な目的としては、( 1 ) スペイン近世国家を構成する各地域における王権・政治社会関係を実証的に検討する、( 2 ) その成果をフランス近世国家の事例と比較することによって、その特質を浮かび上がらせる、という2点をめざした。

( 1 ) については、16、17世紀のスペイン近世国家を構成する諸地域のうち、研究組織メンバーがすでに研究対象としていたイベリア半島のカスティーリャ王国、アラゴン王国、カタルーニャ公国、ポルトガル王国を選択し、また副王制度をてがかりとしてイタリア諸国とインディアス領の統治も研究対象に含めることで、スペイン近世国家の大部分の地域における王権・政治社会関係を考察することを目標とした。

( 2 ) については、王権による地域統合が相対的に進んでいたように認識されることの多いフランス近世国家との比較によって、スペイン近世国家の特質を考察すると同時に、フランス近世国家を複合君主政論によって分析する可能性を検討することを目標とした。

## 3. 研究の方法

本研究においては以下のような体制によって、スペイン近世国家を構成する諸地域に関して、王権・政治社会関係の考察を行った。また、その知見を同時期のフランス王国と比較することによって、スペイン近世国家の特殊性とヨーロッパ近世国家としての共通性を検討した。

内村俊太 ( 研究代表者 ) : カスティーリャ王国、アラゴン王国  
立石博高 ( 研究分担者 ) : カタルーニャ公国  
宮崎和夫 ( 研究分担者 ) : イタリア諸国、インディアス領  
久木正雄 ( 研究分担者 ) : ポルトガル王国  
高澤紀恵 ( 研究分担者 ) : フランス王国における王権・政治社会関係との比較

また竹下和亮 ( 研究協力者、東京外国語大学 ) は、フランス王国との比較のための知見を提供するだけでなく、近世スペインにおける国家理性概念の分析を行うことによって、思想史の側面からもスペイン近世国家の特質を考察した。

以上のような研究体制によって、スペイン近世国家を構成する諸地域に関する実証的な研究を進める一方で、その成果をフランス近世国家との比較や、思想史の観点から相対化することによって、スペイン近世国家における王権・政治社会関係の総体的な把握をめざした。

#### 4. 研究成果

本研究は、申請時は2017～2019年度の3カ年での研究計画であったが、2019年度末からの新型コロナウイルスによる世界的パンデミックにより同年度の研究計画に支障が生じたため、2020年度まで延長した上で、最終的には4カ年の期間で研究が実施された。

その2017年度から2020年度にかけて得られた研究成果は、(1)スペイン近世国家の諸地域に関する個別研究、(2)スペイン近世国家を統合する諸制度(宮廷、副王制など)に関する研究、(3)近世スペインにおける国家理性概念に関する研究、の3つに大別できる。

これらの成果は、個別の研究論文として発表されるだけでなく、本研究組織による論文集として2018年に公刊された(立石博高編『スペイン帝国と複合君主政』昭和堂、2018年)。同書では、スペイン近世国家の総体的な把握のための諸前提が論じられた上で(序章:立石博高「複合君主政体とスペイン帝国」)、以下のように各方向からの研究成果が提示された。

- (1) スペイン近世国家の諸地域に関する個別研究
  - ・アラゴン(第2章:内村俊太「スペイン複合君主政のなかのアラゴン王国」)
  - ・ポルトガル(第3章:久木正雄「スペイン複合君主政下のポルトガルと新キリスト教徒」)
- (2) スペイン近世国家を統合する諸制度に関する研究
  - ・副王制(第4章:宮崎和夫「インディアス諸王国」)
  - ・宮廷(第6章:立石博高「スペイン帝国と帝都マドリッド」)
- (3) 近世スペインにおける国家理性概念に関する研究
  - ・アラモス・デ・バリエントスの思想(第5章:竹下和亮「スペイン「国家」の成立」)

また同書には、スペインとフランスの近世国家の異同を複合君主政論から考察した試論(第1章:内村俊太「複合君主政論の射程」)も含まれ、本研究の基本的な視座が提示された。

さらに、スペイン近世国家の総体的な把握にもとづく歴史叙述として、立石博高『フェリペ2世』(山川出版社、2020年)が公刊され、16世紀後半の複合君主政のあり方とその下での諸地域の様相が示された。とくにカタルーニャに関しては、複合君主政の時代以来のスペイン国家のなかでの位置づけに関して、立石博高『歴史のなかのカタルーニャ』(山川出版社、2020年)が出版され、その歴史的な特質が論じられた。

今後の展望としては、本研究組織メンバーは2020年度より科学研究費・基盤研究B「16、17世紀のスペイン複合国家における公共善をめぐる多元的ダイナミズム研究」をスタートさせている。これは、本研究における問題意識を受け継ぎつつも、各地域の政治社会の問題を特権身分層にのみ収斂させるのではなく、特権身分層が直面していた各地域の民衆層との関係性を重視し、公共善のあり方をめぐって王権・特権身分層・民衆層がどのような相互関係を形成していたかを検討するものである。それによって、本研究での研究成果を基盤として、近世国家の実態をより動的に認識し、三者の緊張関係を内包したダイナミズムそのものとして分析することが本研究組織における今後の課題となる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 宮崎和夫	4. 巻 20
2. 論文標題 スペイン系ハプスブルク朝の副王宮廷 シチリア、ナポリ、ヌエバ・エスパーニャの宮廷に関する研究動向を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 スペイン・ラテンアメリカ美術史研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 54
2. 論文標題 16世紀後半におけるトレード教会 スペイン近世国制史の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久木正雄	4. 巻 11号
2. 論文標題 ポルトガル異端審問制と書物の統制 フェルナン・マルティンス・マスカレーニャスの禁書目録(1624年)をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 11号
2. 論文標題 16世紀におけるアラゴン王国の政体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 18
2. 論文標題 カトリック君主国の都市祭典 フェリーベ2世期のトレードを例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スペイン・ラテンアメリカ美術史研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 10
2. 論文標題 近世スペインの都市年代記における共同体像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 55
2. 論文標題 16世紀カスティーリャにおける政教関係 国家教会化の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 181-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 宮崎和夫
2. 発表標題 「再征服」後のグラナダ市における商業活動をめぐる研究状況
3. 学会等名 国際商業史研究会 (2019年7月27日、京都府立大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 向こう岸のジャコバンへのコメント
3. 学会等名 第69日本西洋史学会大会（2019年5月19日、静岡大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 討論：諸国民の世界史のために
3. 学会等名 フランス国立日本研究所・日仏会館共催シンポジウム（2020年1月24日、日仏会館）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎和夫
2. 発表標題 スペイン系ハプスブルク家の宮廷社会
3. 学会等名 スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木正雄
2. 発表標題 フェリーペ4世即位期のユダヤ系改宗者問題 評議会（フンタ）制度による施政方針の模索
3. 学会等名 スペイン史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木正雄
2. 発表標題 スペイン統治下のポルトガルと新キリスト教徒 17世紀初頭の関連評議会史料より
3. 学会等名 2018年度東海大学史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高澤紀恵（ギヨーム・カレ氏と共同）
2. 発表標題 問題提起－身分制社会における身分と周縁 16～19世紀における日本とフランス
3. 学会等名 JSPS-CNRS日仏シンポジウム「身分制社会における身分と周縁 16 19世紀における日本とフランス」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内村俊太
2. 発表標題 近世スペイン帝国の歴史認識の観点から
3. 学会等名 日本学術振興会・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業：グローバル展開プログラム「グローバル社会におけるデモクラシーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木正雄
2. 発表標題 スペイン同君連合下のポルトガルにおける新旧キリスト教徒の分断と同化
3. 学会等名 日本ユダヤ学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 立石博高	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 272
3. 書名 歴史のなかのカタルーニャ 史実化していく「神話」の背景	

1. 著者名 内村俊太、河崎健、高橋暁生、上野俊彦、牧陽子、ブリュー・モンフォール、安達祐子、木村護郎クリフトフ、伊達聖伸、ヴァルヴァラ・ムヒナ、市之瀬敦、村田真一、松原典子、マウロ・ネーヴェス、ジョン・ウィリアムズ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 347
3. 書名 新しいヨーロッパ学	

1. 著者名 立石博高（編者）、内村俊太、久木正雄、宮崎和夫、竹下和亮	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 スペイン帝国と複合君主政（分担執筆 立石博高「複合君主政体とスペイン帝国」1-14頁、内村俊太「複合君主政論の射程」15-48頁、内村俊太「スペイン複合君主政のなかのアラゴン王国」49-83頁、久木正雄「スペイン複合君主政体下のポルトガルと新キリスト教徒」85-116頁、宮崎和夫「インディアス諸王国」117-151頁、竹下和亮「スペイン「国家」の成立」153-195頁、立石博高「スペイン帝国と帝都マドリッド」197-249頁）	

1. 著者名 エドゥアルド・メンドサ著、立石博高訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 114
3. 書名 カタルーニャでいま起きていること	



1. 著者名 宮崎和夫、亀長洋子、黒田祐我、佐藤健太郎、高田良太、澤井一彰、西村道也、齊藤寛海、飯田巳貴、堀井優、櫻井康人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 科学研究費助成事業(基盤研究(B)一般)成果報告書	5. 総ページ数 158
3. 書名 中近世地中海史の発展的研究：グローバルな時代環境での広域的交流と全体構造（分担執筆 宮崎和夫「スペイン王権の異端審問のイタリアへの進出に関する覚え書き」15-28頁）	

1. 著者名 J・H・エリオット著、立石博高・竹下和亮訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 歴史ができるまで トランスナショナル・ヒストリーの方法（岩波現代全書）	

1. 著者名 高澤紀恵、福井憲彦、池内了、重田園江、伊達聖伸、渡名喜庸哲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 対立する国家と学問 危機に立ち向かう人文社会科学	

1. 著者名 高澤紀恵、岸本美緒、廣瀬憲雄、黒田仁、黒木英充、加藤玄、中澤達哉、川戸貴史、横山百合子、小野沢あかね、飯島渉、池田嘉郎、三品英恵、成田龍一、須田努、松沢裕作、西山暁義、永野善子、鈴木茂	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 303
3. 書名 世界史像の再構成：第4次現代歴史学の成果と課題 2	

1. 著者名 宮崎和夫、川瀬佑介、ハビエル・ポルトゥス、大高保二郎、ジョナサン・ブラウン、ホセ・ファン・ペレス・プレシアード、久保田有寿	4. 発行年 2018年
2. 出版社 読売新聞東京本社、国立西洋美術館	5. 総ページ数 341
3. 書名 プラド美術館展：ベラスケスと絵画の栄光	

1. 著者名 内村俊太、高橋暁生、米山かおる、岩崎えり奈、野澤丈二、杉浦未樹、名和玲、飯島真理子、石井紀子、佐々木一恵、矢澤達宏、小塩和人、正山耕介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 332
3. 書名 グローバル・ヒストリーズ 「ナショナル」を越えて	

1. 著者名 立石博高	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 103
3. 書名 フェリペ2世 スペイン帝国のカトリック王	

1. 著者名 宮崎和夫、齊藤寛海、西川洋一、山辺規子、高田京比子、高山博、城戸照子、和栗珠理、根占献一、中平希、佐藤公美、亀長洋子、三森のぞみ、北原敦、皆川卓、徳橋曜、北田葉子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 736
3. 書名 世界歴史大系 イタリア史2 中世・近世	

1. 著者名 久木正雄、永田智成	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 224
3. 書名 一冊でわかるスペイン史	

1. 著者名 内村俊太、伊達聖伸、井上まどか、江川純一、岡本亮輔、小川君代、加藤久子、木村護郎クリストフ、オリオン・クラウタウ、立田由紀恵、西脇靖洋、増田一夫、見原礼子、諸岡了介、白尾安紗美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 332
3. 書名 ヨーロッパの世俗と宗教 近世から現代まで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	立石 博高 (TATEISHI HIROTAKA) (00137027)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授  (12603)	
研究分担者	宮崎 和夫 (MIYAZAKI KAZUO) (40251318)	筑波大学・人文社会系・准教授  (12102)	
研究分担者	高澤 紀恵 (TAKAZAWA NORIE) (80187947)	法政大学・文学部・教授  (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久木 正雄  (HISAKI MASAO)  (20846737)	法政大学・国際文化学部・講師    (32675)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	竹下 和亮  (TAKESHITA KAZUAKI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関